

2020/4/21

商品企画部
中島 三養子

マーケット・フォーカス

商品：原油

米在庫過剰から初のマイナス、年後半に需要復調か

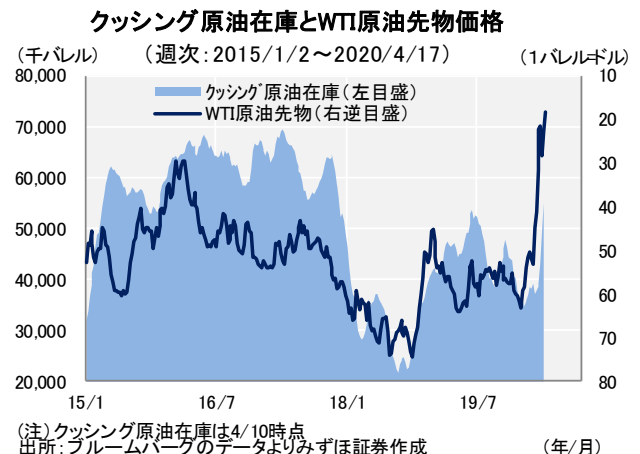
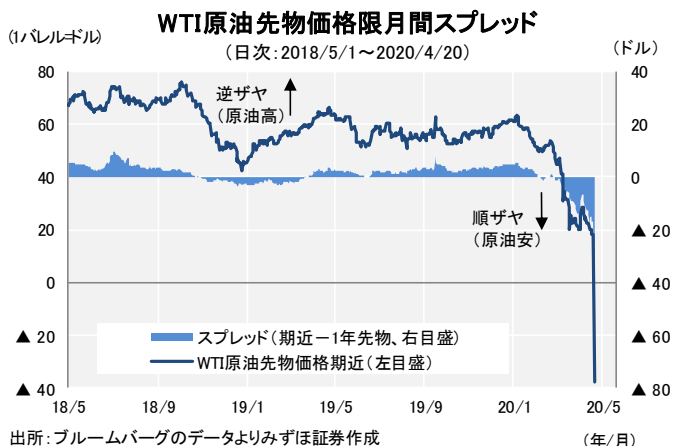
- 在庫過剰から受け取り手のない原油価格5月限はマイナス圏、パニック売り一巡に
- 原油需要が復調となるまで上値重く、年後半の需要回復を見込む

在庫過剰から5月物はマイナス圏、パニック売りは一巡に

WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)原油先物価格(5月限)は4/20に1バレル=▲37.63ドルと最終取引日を前に初のマイナス圏となった。米国で在庫が積み上がり、保管スペースが確保できなくなるとの見方から、差金決済のための投げ売りが加速した。米国の受け渡し地オクラホマ州クッシングの在庫が貯蔵能力の限界となり、洋上在庫も積み上がっているため保管コストが上昇しているようだ。消費国での戦略備蓄積み上げ案が浮上しているものの、実現性は不透明だろう。一方、同6月限は1バレル=20.43ドル。商品は保管コストや金利がかかるため、限月が長くなるほど高くなるのが通常。ただ、6月限の最終取引日(5/19)にかけて需給が改善しない場合、期近と期先との裁定が働き、下落する可能性には留意したい。

原油需要が復調となるまで上値重く、年後半の需要回復か

石油輸出国機構と非加盟国(OPECプラス)は5~6月に日量1,000万バレル、7月以降は日量800万バレル、2021年1~22年4月は日量600万バレル減産予定。4月の世界原油需要は新型コロナウイルスの影響から約2,000~3,000万バレル程度の減少が見込まれており、足元の減産は在庫の積み上がりを抑えきれないだろう。国際エネルギー機関(IEA)は、全体で日量1,500万バレルの減産を順守し、封鎖政策が解除となれば6月に原油需要は回復するとの見通しを示す。また、国際通貨基金(IMF)は世界経済成長見通しを20年前年比▲3%→21年同5.8%と予想しており、20年後半~21年に世界経済が回復に向かえば原油価格も戻りを試しそうだ。以上のことから4-6月期の原油価格の予想レンジは1バレル=15~30ドルと予想。



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断をお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。

なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。

外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。

商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-200421-06